

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

### 特に注意！(3月)

#### なす(施設栽培)

##### 灰色かび病

- 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、20°C程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなります。適度に換気を行い、湿度を下げましょう。
- 発生が見込まれる時期に、ベルクート水和剤等を、発生を認めたらセイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブルなどを散布しましょう。

##### アザミウマ類

- 苗からの持ち込みによる発生に注意しましょう。
- 発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布しましょう。
- 育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用しましょう。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。
- 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

#### たまねぎ

##### べと病

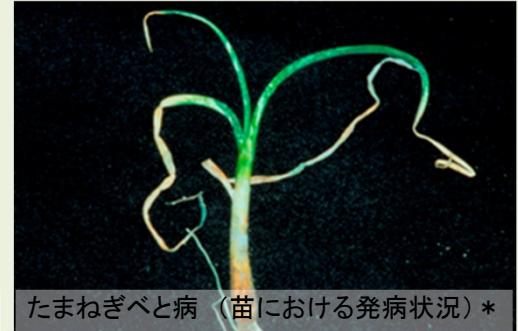
- 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布しましょう。
- 発生を認めたら、ベトファイタ一顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布しましょう。



灰色かび病症状 \*



ミナミキイロアザミウマ成虫※



たまねぎべと病（苗における発病状況）\*

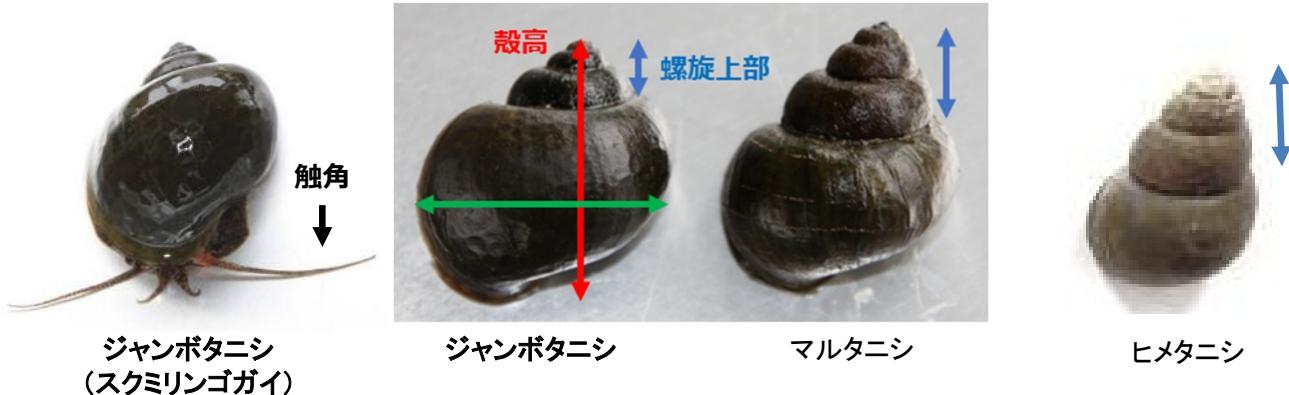
次回の情報は3月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

## 水稻

### ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

## 特徴

- ◆成貝の殻高は2~7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

## 防除のポイント

- ◆耕うんの際、耕うん機などの土に貝が付着があるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

# 果樹

## ぶどう(加温栽培)

### 灰色かび病



#### 特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆胞子（分生胞子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

#### 防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようとする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニールでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッターフロアブル、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターなどを散布する。

### ハダニ類



#### 特徴

- ◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

#### 防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、マイトコーンフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブルなどを散布する。

### ハスモンヨトウ



#### 特徴

- ◆幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆早期加温栽培では3~4月に被害を受けやすい。

#### 防除のポイント

- ◆幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

## クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

### 特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

### 防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点が加害されると、被害が大きいので初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

## いちじく

### ハダニ類、カイガラムシ類



カンザワハダニ※



フジコナカイガラムシ幼虫※

### 防除のポイント

- ◆夏期の被害をおさえるため、3月中旬（発芽前）に石灰硫黃合剤を散布する。

## もも

### せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

### 特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

### 防除のポイント

- ◆開花期直前にI C ボルドー 412を散布する。（薬害を生じるおそれがあるため、開花後から8月下旬までは使用しないこと。）
- ◆春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほか場外に持ち出し処分する。
- ◆風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

## バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

### クビアカツヤカミキリ



### 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。
- ◆幼虫は3月下旬から中華麺～うどん状のフ拉斯（木くず等の混合物）を出すので注意する。  
フ拉斯を見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフ拉斯をかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシェアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

### 伐採後の切株について



### 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

### 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。  
一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」  
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouyouyouhou/R0305kubiaka.pdf>
- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/Aromia\\_bungii\\_manual\\_R3.3.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf)

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

### すすかび病



#### 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブルなどを散布する。

### 灰色かび病



#### 特徴

- ◆施設栽培で発生が多い。20°C程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラー水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

## きゅうり(施設栽培)

### 黄化えそ病



#### 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリなどに感染する。
- ◆MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MYSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

#### 防除のポイント

- ◆MYSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## 退緑黄化病



### 特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

### 防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はコナジラミ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## なす(施設栽培)

### 灰色かび病



### 特徴

- ◆咲き終わった花がらや幼果に感染しやすい。
- ◆20°C程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

### 防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルクート水和剤等を、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

## アザミウマ類



### 特徴

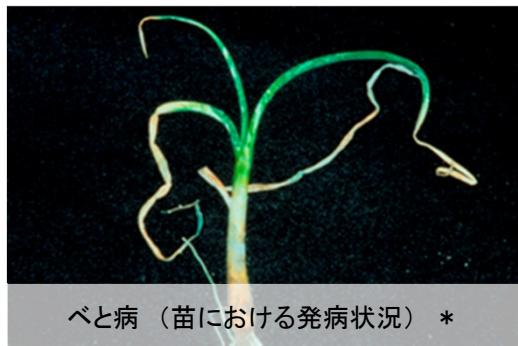
- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

### 防除のポイント

- ◆発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布する。
- ◆育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

## たまねぎ

### べと病



#### 特徴

◆苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として2～3月に病徵を現し、周辺への伝染源になる。

#### 防除のポイント

◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布する。

◆越年罹病株は早めに除去する。

◆発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

## 白色疫病



#### 特徴

◆2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

#### 防除のポイント

◆発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。

◆発生を認めたら、サンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMなどを散布する。

## ネギアザミウマ



#### 特徴

◆成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。

#### 防除のポイント

◆発生を認めたら、ディアナSC、グレーシア乳剤、プレオフロアブルを散布する。

◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。